

経営改革の進捗状況と下半期の取組み



このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。

経営改革への取り組み ～計画線上で推移～

1. 業績推移： 第2四半期は営業利益で計画以上の黒字

2. 「アクションプラン2007」

1) 事業構造改革

- ・基幹事業の集中強化 = 民生・エンタテインメント・プロシステム
- ・事業の見直し = 部品・記録メディア

- ➡ 成長戦略の強化：カムコーダー、カーへのリソースシフト
- ・技術開発体制の強化と事業開発への取り組み

2) 経営体質改革

- ・早期退職優遇措置
- ・本社機構改革

経営改革への取り組み ～計画線上で推移～

3. ケンウッドとの資本業務提携

→ 1) 下半期から具体的に協業開始

カーエレクトロニクス 及びホーム/ポータブルオーディオ

- 製造委託の相互推進、部品調達面での協業
- 設計/生産IT インフラストラクチャーの共同開発
- 知的財産権の相互利用
- 技術開発合併会社の設立(10/1)

→ 2) 経営統合に向けた具体的検討開始

商品戦略

①技術でリード

- FHDx倍速
- 新高画質エンジン



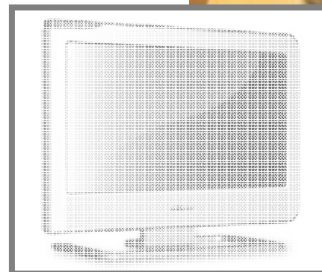
②差別化

- 良い音の追求
- 人にやさしい機能
- エアリーデザイン



③ライフスタイル提案

- スリムLCD
- パーソナルユース



08年度黒字化に向けて

①生産改革

コスト構造改革の
成果刈り取りへ

- 欧州:スコットランド工場+EMS活用(大陸向け)スタート
- 米州:工程改革によるコスト体質完成
- アジア:欧州向基板/全世界外装部品の供給基地

②原価創造

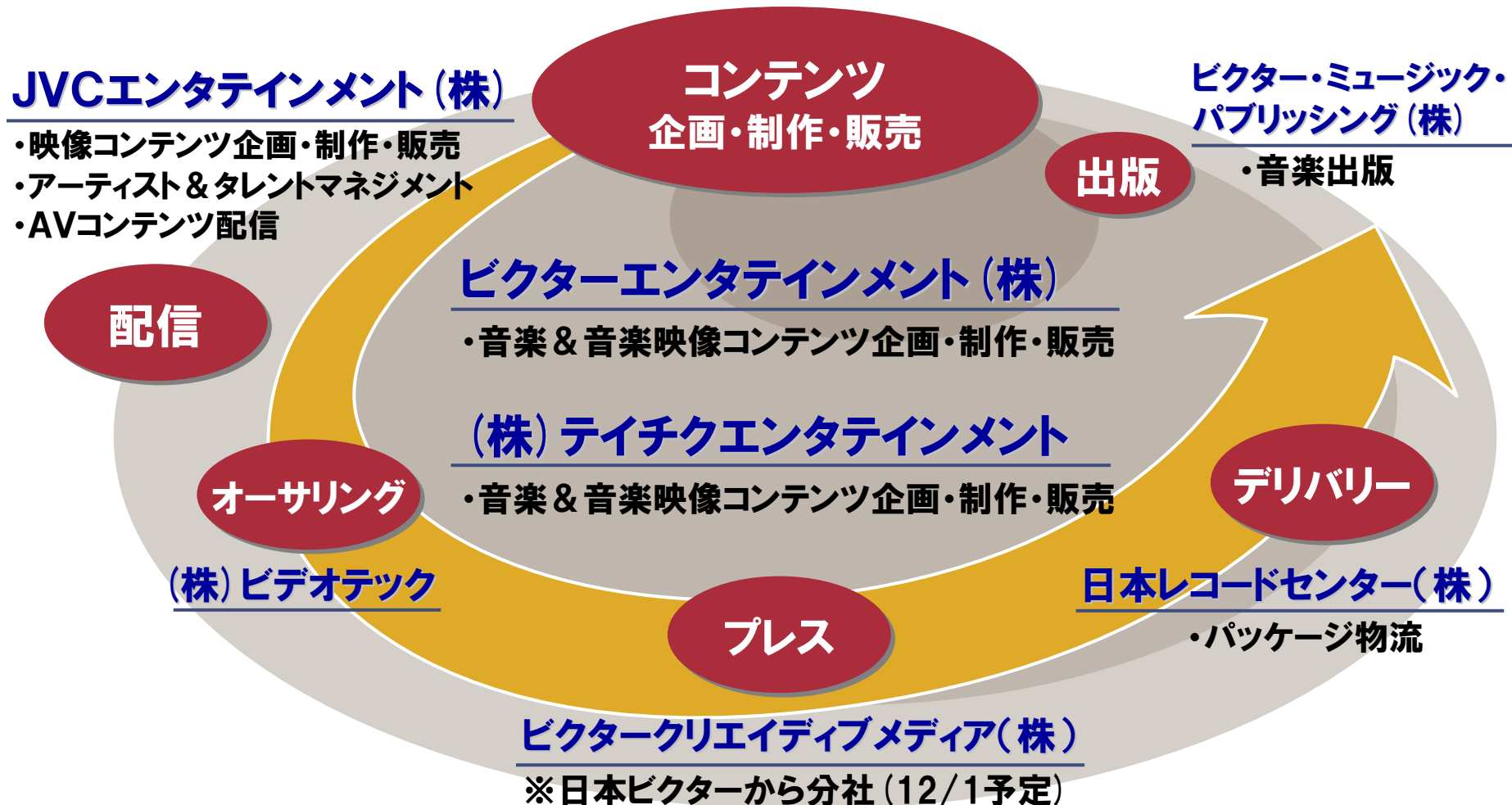
水平分業での
成功パターン

- 戦略原価センター新設
・パネルメーカーとのアライアンス強化(Quantity/Cost)
- 液晶モジュールのカスタム化による付加価値取り込み
(スリムLCD-バックライトユニット自社設計)
- 設計パワー強化(人員シフト)
→共通プラットフォーム設計/差別化要素開発強化

③オペレーション

- 初期増販~「鮮度」を活かす
- IPS(在庫・生産・販売)マネジメント徹底推進
- 市場投資による液晶ブランドイメージづくり

コンテンツ開発からデリバリーまで、
シナジー効果を狙ったフルフィルメント体制を確立



B to Bビジネスの特性を活かした「高収益事業」を目指す

セキュリティ

- ・映像監視カメラシステム (Analog /IP)



プロオーディオ

- ・業務放送システム
- ・非常放送システム
- ・音声コミュニケーションシステム



クリエイション (プロビデオ)

- ・業務用 3CCD カメラレコーダー



プロディスプレイ

- ・新4Kプロジェクター
- ・業務用プロジェクター
- ・業務用LCD



(下期)
重点推進テーマ

■ セキュリティ分野の商品ラインアップ強化

- ・高性能・高機能コンビネーションカメラ
- ・IPカメラ/ネットワークビデオレコーダー

■ 海外事業の強化

- ・セキュリティ分野のアライアンス戦略
- ・業務用カメラレコーダー(HDV)
- ・業務用D-ILAプロジェクター、液晶DTVモニター



Victor · JVC

The Perfect Experience / —